

## パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

### 3 チェルヌスキ美術館「木曾街道の旅-広重から国芳-」展（2020年10月19日）

日本大使館の近くにあるチェルヌスキ美術館で、木曾街道をテーマとした浮世絵展（Voyage sur la route du Kisokaido. De Hiroshige à Kuniyoshi）が始まりました（2021年1月17日まで）。

木曾街道とは中山道のことで、江戸時代に五街道と呼ばれた五つの主要な街道の一つです。東海道も木曾街道も江戸と京都を結ぶ道ですが、東海道は太平洋側を通るのに対して、木曾街道は山側を通る道です。東海道には五十三の宿場町がありましたが、約540キロに及ぶ木曾街道は東海道よりも距離が長く、山道も多かったことから、六十九の宿場町がありました。



今回の展覧会では、木曾海道（街道）六十九次と題した浮世絵のコレクションが展示されています。歌川広重と溪斎英泉による作品は、個人コレクターが所有するものです。壁一面に並べられた浮世絵は保存状態がとても良く、200年近い年月が経っているとは思えないほど鮮やかな色彩が見事です。所有者の方は、一人でも多くの方に観てもらいたいと話されていました。



歌川国芳による作品は、チェルヌスキ美術館が所蔵するもので、初公開です。こちらまるで昨日印刷したかと思うほどの鮮やかな色が印象的です。広重の作品が横向きで景色を描いているのに対して、国芳の作品は縦長で人物が大きく描かれています。ボストン美術館が所蔵する歌川国貞の作品は、映像で鑑賞できます。

鎧、刀、螺鈿の硯箱、着物といった江戸時代の人が使っていた道具も展示されており、当時の生活をより身近に理解することができます。大名たちは、素敵な重箱を持ってピクニックを楽しんでいました。普段は、銀行の金庫に大切に保管されているという個人コレクターが所有する貴重な品々ばかりです。

江戸時代の人と一緒に木曾街道の旅を楽しむことができる展覧会です。

